

# 鐘楼

伊勢崎市立北小学校学校運営協議会だより 第18号  
(本年度2号)  
令和5年2月 伊勢崎市立北小学校学校運営協議会  
北小学校ホームページアドレス：<http://www.isesaki-school.ed.jp/kitasyo/>

厳寒の候、皆様におかれましては、ご健勝のことと拝察申し上げます。北小学校運営協議会の情報を発信する「鐘楼」の今号は、学校運営協議員一人一人から、それぞれの立場で子どもたちや地域・家庭に伝えたいメッセージを掲載しました。ご高覧ください。

## ☆ メッセージ ☆

### 「夢のある未来を願い・・・」 小山 美子（伊勢崎市立第一幼稚園長）



秋が深まり、生い茂った葉が風に舞い、あちこちが落ち葉で敷き詰められる様を見ると、ある3歳の男の子の姿が思い出されます。それは、両手を力いっぱい広げて空を見上げ、じっとしていました。「葉っぱ大会してるんだ」と男の子は言うのです。その日は、風も弱く30秒くらいするとたった1枚の葉っぱがひらひらと落ちてくるのですが、その落葉の瞬間をじっと待ち、その時が訪れると目を輝かせ、必死に追いかけて葉っぱをキャッチしていました。天を仰ぎ、両手を広げる姿に全身で放つエネルギーを感じ、自らの身を秋の空にアクセスしているように見えました。「葉っぱ大会」というネーミングも実に素敵で、心を揺さぶられる大きな大きな大会だったに違いありません。この姿を見た時に、夢をもてる未来であってほしいと改めて思いました。家庭、学校、地域が一体となり、一人一人の持ち味を大事に生き生きと生きていけるよう、微力ながら委員として努めていきたいと思っております。

### 「文化祭の再開について」 佐藤 昌弘（北公民館長）



北公民館では生涯学習の発表の場として、サークル団体の作品展示や健康推進活動を中心とした文化祭を10月に3年ぶりに開催できました。サークルに通っている小学生の書道作品や三中美術部の絵画作品も出品していただき、来場者にも大変好評でした。

今後も夏休みや冬休み期間の絵画教室や書道教室の開催などを通じて幅広い年齢の方に利用してもらいたいです。

みなさんも興味がありましたらぜひ、ご参加ください。

### 「『危機』から何を学ぶのか」 高橋 望（群馬大学大学院准教授）



2011年3月11日、私たちは未曾有の「危機」に直面しました。東日本大震災は、私たちの生活を大きく変えました。当時、仙台に住んでいた私は、震災後、宮城県内の先生方からお話をうかがう機会を得ました。「震災の怖さは、今まで当たり前が続くと思っていた毎日が、一瞬でなくなってしまうこと、そしてそれが二度と戻ってこないことなんです。」この言葉が、とても印象に残っています。

私たちは、再び「危機」に直面しました。学校に通い、授業を受け、休み時間に友達と遊び、学校行事を楽しむといった今まで当たり前だったことができなくなってしまいました。

そして今、徐々にではありますが、「危機」からの回復がみられるようになってきています。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」とは言いますが、次に直面するかもしれない「危機」のために、「危機」から学ぶ姿勢が求められると考えます。

### 「将来を考えることについて」 本堂 晴生（NPO法人 Gコミュニティ代表理事）



学校評価アンケートの結果では、児童も保護者も、家庭での読書と、将来について考える・話す、低い数値になっていました。今世界では戦争や対立が起き、日本では年金の不安など、大人にとって将来が不安になる状況が続いています。大人の不安は子どもたちにも影響しますよね。そういう中、子どもたちはどのようにすれば将来の夢や希望を持つことができるでしょうか。子どもたちにとって力になるのは、多分、多様な友だちや大人

との交わりで自分の強さや弱さを知ることであり、それを通して、自分で考え自分で決める力をつけることかと思えます。読書はそれに役立ちますし、家庭で保護者自身が小中学校時代に描いていた将来とその後について、子どもに話したりすることも身近に考えるきっかけになるでしょう。私も、子どもたちが将来について考える機会や環境をつくる手伝いをしていきたいと思えます。

#### 「ルール」 丸山 晃司（北地区青少年育成推進員）



コロナ禍になり約3年が経ち、まだまだ不安は続いています。少しずつ落ち着き、新型コロナウイルスとの共存の道が見えてきました。今の子どもたちは、生まれたときからすでにスマートフォンやインターネットがあるので、コロナ禍においてインターネットやゲーム等を利用する時間が、以前より長くなったと感じているご家庭も多いかと思えます。子どもは覚えるのが早く、使い慣れているので、危険なことも知っているはずと私たち保護者は思ってしまうのですが、とても便利で楽しくすばらしいものであると同時に、危険な面もあります。インターネットの世界で守らなければならないルールやマナーについて知識や経験がまだ十分でないと感じます。

これからインターネットやSNSとどのように付き合っていけばよいかを改めてお子さんと話してみたいでしょうか。

#### 「自分を信じて」 山田 亜基子（北小ボランティアリーダー）



今年度の全国学力・学習状況調査の結果、国語・算数・理科のほとんどで県や全国の平均を上回っていたが、「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っている」の回答が全国平均よりも少なかったそうです。小学生のみなさんは、日々どんどん成長していきま。今日できなかったことが、明日には、一週間後にはできるようになります。難易度が高く、すぐに結果が出ないこともあると思えます。周りのお友達や優秀な誰かと比べて諦めるのではなく、自分を信じて努力し、挑戦し続けて欲しいと思えます。将来の目標を決めるのが難しい人は、目の前にあることから考えていきましょう。先生方や保護者、地域の方々は、北小に通っているみんなの味方です。応援しています、やればできる。

#### 「私たち学校運営委員とPTAはどうちがうのか？」 山田 千広（PTA会長）



私が会長をしている北小学校のPTAは、Parent（保護者） Teacher（先生） Association（団体）の頭文字をとったものです。「北小父母と教師の会」という言い方もあります。学校運営協議会（コミュニティ・スクール制度）は、そこに地域の代表方が入ったものです。学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことで、子どもたちの学び・学校生活をより充実したものすることができます。しかし、それだけはないと思っています。学校を中心にしたつながりが、地域の社会資源になり地域課題の解決につながっていく側面もあるように思えます。PTAは、子どもたちのために活動する。学校運営委員は、子どもたちと地域のために活動していると思えます。大げさに言えば、地域の未来のために活動するのが学校運営協議会だと思っています。

そのためにも、運営委員が切り花ではなく、地面に根っこを張っていかないとならないと思っています。

## ☆ 活動の概要 ☆

第3回学校運営協議会では、「第1回学校評価アンケート」の結果・分析について学校側から報告を受け、その内容について学校側と情報交換をしました。安全に関する意識やICTの活用、集団でのコミュニケーション力、地域との連携、読書・読み聞かせの大切さ、教職員の業務改善等について幅広く意見交換をしました。

その後、健康・安全班と健全育成班の2つに分かれて、学校課題の解決に向けた具体的な活動について、それぞれ協議しました。健康・安全班では、情報モラルについて保護者の意識調査について話し合いました。健全育成班では、高学年を対象にしたキャリア教育の講演会の実施について話し合いました。

また、「すまいるカレンダー」については、今年度も令和5年度用のものを作成しています。楽しみにしてください。

